結成20周年
新たな大躍進に向け出発！

日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番
99.8.6 No.5000

日刊動労千葉 5000号

かけがえのない財産

「日刊動労千葉」の創刊号は一九七九年一月八日に発行された。以降二〇年、「日刊動労千葉」は今日、五〇〇〇号という大きな節目を迎える。この五〇〇〇号のなかには、団結を守りぬいて二〇年間の道程を胸をはって歩んだ組合員・家族の血と汗と涙、そのときどきの闘いへの想い、決断、怒り、そして誇りがギッシリつまっている。「日刊」は全組合員の力で創りあげたかけがえのない財産だ。

嵐の渦中で発刊！

一九七八年十一月、動労「本部」は、一〇一定中で千葉地本三役への査問委員会を設置し、地本破壊ー統制処分攻撃を本格的に開始した。「日刊動労千葉」はこうした攻撃の最中で、組織破壊攻撃をはね返し一四〇〇名組合員の団結を守りぬくために発刊された。「日刊」発刊の翌日一月九日には、青年部によって「地本防衛青年行動隊」が結成されるなど、当時の状況はまさに雷鳴とどろく嵐の前夜にあった。こうしたなかで「日刊」は、毎日のように職場や家庭におし寄せる動労「本部」・革マルの組織破壊オルグ・襲撃・デマ宣伝、そして当局や権力と結託した不当解雇、告訴・逮捕等の大弾圧のなかで、不動の団結を維持する意味で絶大な力を発揮した。本部ー支部の教宣部の不眠不休の努力によって、昨日起きたことが翌日には全組合員に伝わる体制が確立されたのである。

組織と団結の基礎に

以降「日刊」は、国鉄分割・民営化反対闘争をはじめとした二〇年間の闘いの節々で、どのような取り組み、どのような団体交渉が行われているのか、闘いをとりまく情勢はどうなっているのか、組合はどのような方針で臨もうとしているのかをどこよりも早く組合員に伝え、各現場の声を全体に反映し、また当局やJR総連に対しては鋭い武器となって、団結の基礎を築く大きな役割を果たした。

また安全問題の追及などでは、当局も「日刊」に何が書かれるのかをいつも気にしながら日常の業務を計画せざるを得ない状況をつくりだし、労資の力関係の確立にとっても重要な役割を果たした。「日刊」は、有形・無形の力となって、二〇年間の闘いを支えたのである。

たゆまぬ努力の結晶

「日刊」は何よりも教宣部の大変な努力の結晶として五〇〇〇号の発行が維持されてきた。編集委員会の討議で内容を決め、原稿を書き、版下をつくり、印刷して各支部や配転されている仲間たちなど約七〇箇所に発送するという作業は、深夜に及ぶことが常である。しかも、各号の原稿の書き手、レイアウトの担当者、印刷・発送の担当者、発送用の封筒の宛名の印刷など、分担した歯車がひとつでも噛み合わなければ発行が遅れてしまうことになる。しかし二〇年間、絶やさずにやり続けたこと自身が動労千葉の底力をつくったのだ。

また各職場でも、とくにJRになってからは、「日刊」を配布することが「職場内組合活動」を理由に禁止され、実際多くの仲間が処分されたり、ボーナスをカットされるという状況のなかで、「日刊」を確実に全組合員に届けるという支部の活動自体が大変な闘いであった。しかしこの活動も、各支部の努力によって守りぬかれた。「日刊」は、こうした全組合員の絶え間ない日常の努力に支えられて五〇〇〇号発行されつづけたのだ。

けわしい壁をこえて

大きな節目にあたってわれわれは、一万号、二万号に向けた発行の継続と内容のより一層の充実、そして闘う労働運動の再生のために、初心にかえって新たなスタートをきる決意である。

闘いの道には常にけわしい壁が立ちはだかるものだ。また闘いが困難な壁に突きあたったとき、勝つか負けるかの別れ目は、ほんのわずかのガンバリで決まるものである。われわれは「日刊動労千葉」が、闘いの最も大切な時期に、そうした「ほんのわずかなガンバリ」をつくりだす礎石となればと願っている。

一歩も引かない決意で

組織・教宣部長　中村　栄一

機関紙「日刊動労千葉」は、動労本部からの分離・独立の過程で発刊を決意し、組合員の団結と全国の仲間の支えで、一九七九年の創刊から二〇年、五〇〇〇号の発行を迎えました。「日刊動労千葉」は、今日の動労千葉をつくりあげるうえで、重要な役割を果たしてきたと考えています。

教宣部の力不足で拙い内容ではありながら、今日まで継続的な発行を維持してこれたのも、組合員の現場での闘い、ガンバリがあったからです。あらためて感謝いたします。これからもより一層の内容的な充実を図り、組合員の要望に応えることができる日刊にしていく決意です。より良いものとするために、「日刊」への意見をドシドシ教宣部までお寄せください。

闘う労働運動の再生とわれわれの闘いの勝利のために、教宣部一同さらなる努力と、一歩も引かない決意で臨みますのでよろしくお願い致します。